



## 株式会社川上鉄工所 川上朋弘 代表取締役社長インタビュー 「未来を切り拓く経営者の素顔と戦略」

0I-Start の会員でもある株式会社川上鉄工所の川上朋弘代表取締役社長にお話を伺いました。

ものづくりへの意外な苦手意識から、独自の経営哲学、DX や AI といった最新技術への向き合い方、そして会社の未来像まで、多岐にわたる内容を率直に語っていただきました。

本記事では、そのロングインタビューの要点をダイジェストでお届けします。



### ■ 経営者としての原点と仕事観：「やりたくない」から始まる、楽しみの見つけ方

川上社長は、約 18 年前に入社し、1 年半ほどの現場経験を経て経営に携わるようになりました。意外にも「ものづくりが苦手」と公言し、キャリアのスタートは営業職だったと言います。その経験から、「仕事の楽しみは与えられるものではなく、自分で見つけるもの」という哲学が生まれたと語ります。

また、「好き」と「得意」は別物であり、周囲から「得意だね」と言われることを伸ばす方が成果に繋がりやすいと分析。ご自身の行動の多くが「やりたくない」という気持ちから始まっているというユニークな視点も披露されました。SNS の活用やメルマガ発行も、最初は強制感から始まったものの、その中で楽しみや意義を見出してきた経緯が明かされました。

### ■ 意思決定のメカニズム：外部の囁きと内なる確信が生む「突然の行動」

社長の意思決定プロセスは独特です。社員、専門家、あるいは新聞記事など、様々な方面から繰り返し情報が入ってくるうちに、その言葉が頭の中に残るようになります。「やりたくない自分」と「よく聞く言葉」がせめぎ合い、それに対する情報を集め、自分の中で問い直し、整合性が取れた瞬間に、まるで突然思い立ったかのように行動に移すと言います。年間休日を3ヶ月で106日から116日に増やした事例や、設備投資の決断も、周囲には突然に見えても、社長の中では時間をかけた熟考と外部からの刺激の蓄積があった結果なのです。

### ■ DX・AI よりも大切なこと：己を語り、本質を見抜く力

デジタルトランスフォーメーション（DX）や人工知能（AI）が注目される現代において、社長は「それらよりもまず、自分のことをどれだけ語れるかが本質」だと強調します。自身の考え方や価値観を理解し、それを他者に説明できること。その上でDXやAIが必要であれば使うべき、というスタンスです。実際に社長ご自身もAIを積極的に活用し、情報収集や文章作成、自己分析に役立てていることを明かし、「使わないのは悪」とまで言い切ります。

### ■ 社員との向き合い方：「社長通信」

社員向けの「社長通信」を定期的にLINEやメールで発信し、コミュニケーションを図っています。また賞与の際に社員一人ひとりに手書きの手紙を7～8年間続けています。これは、ある社長が「200人に手紙を書いている」という話に感銘を受け、社員やその家族への思いを伝える貴重な機会となっているようです。

### ■ 未来への挑戦：伝統技術と革新技术の融合、そして「人が依存しない」ものづくりへ

今後の会社の成長について、社長は明確なビジョンを持っています。従来の「熟練工の職人技」に頼るビジネスモデルから、「ロボット化」「油圧式ハンマーによる省エネ・標準化」「シミュレーション技術の活用」へと舵を切ろうとしています。これは、受注ロットの小規模化、熟練工育成の難しさ、エネルギーコストの増大といった課題に対応するためです。「人に依存しない、誰がやっても同じ品質を生み出せる」仕組みを目指し、製造業の「3K（きつい・汚い・危険）」イメージを払拭し、若者にとっても魅力的な職場環境を創造したいと考えています。新しい油圧設備導入にも踏み切り、偏見なく良いものを取り入れる姿勢を示しています。

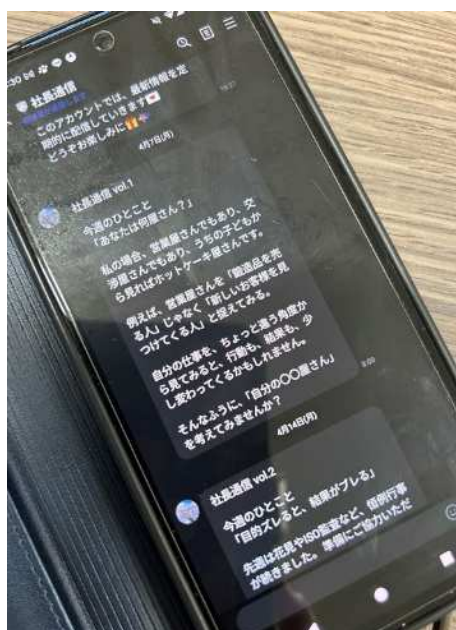
一方で、長年会社を支えてきた熟練工の技術やプライドへの敬意も忘れてはいません。社長自身もその職人技に魅力を感じているからこそ、伝統をただ否定するのではなく、新しい

技術と融合させながら未来へ繋いでいく道筋を模索しています。

## ■ 地域との関わり：連携の鍵は「共感体験」

創業の地・大阪から岡山へ移転して 50 年。騒音などで地域に迷惑をかけることもある一方、災害時に操業音が止むと「寂しい」という声が聞かれた際には、企業の存在意義を感じたと語ります。

中小企業同士の連携については、「連携しよう」という目的が先行するとうまくいかないと言います。むしろ、打算なく話をする中で自然発生的に「何かやってみよう」という流れが生まれる方が良いと考えています。鍛造業界と鋳造業界の若手経営者が交流し、互いの製法でフライパンを作ってみる、といった「共感体験」こそが、真の結びつきを生むと語りました。



毎週配信されている社長通信

■このコーナーは、インタビューの最後に、目を閉じて、OI-Start 的 10 個の単語を聞いていただき、それぞれ思い浮かんだ言葉を答えてもらいます。

《連想ワード》 回答：株式会社川上鉄工所 川上社長

- ①鍛造 → 刀（かたな）
- ②継承 → 技術
- ③若手 → 40 代
- ④汗 → 美しい
- ⑤誤差 → だいたい

- ⑥師匠 → 先輩
- ⑦旅 → 気分転換
- ⑧AI → 大好き
- ⑨ネジ → かかせない
- ⑩未来 → あかるい

※ 川上社長のメールマガジンは下記 URL からご覧いただけます。

株式会社川上鉄工所 Web サイト URL : <https://kawakami-ironworks.com/>

### 編集後記

今回のインタビューを通して、川上社長の柔軟な思考と大胆な行動力、そしてものづくりの未来に対する真摯な姿勢が強く印象に残りました。伝統を尊重しつつも、変化を恐れず新たな挑戦を続ける川上鉄工所の今後に、ますます注目です。

おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム（OI-Start）事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1

自然科学系総合研究棟 6F OI-Start Open Lab

oi-start@okayama-u.ac.jp

<https://oistart.okayama-u.ac.jp/>